

足立納税貯蓄組合連合会 会長賞

「見方によって変わる税」

足立区立 千寿桜堤中学校

三年 横山 侑奈

今の日本は税金が上がっています。実際、「税金が高い」という声をよく耳にし、そして政府も減税の政策など掲げているもの。実際どうなっているかはあまり分かっていませんでした。現在、税金の多くは社会保障に使われています。社会保障とは、具体的に医療費や年金、介護のためのお金です。このまま少子高齢化が進んでしまうと年金や介護のためのお金がもつとたくさん必要になるため、さらに税金が上がってしまうでしょう。このまま働いている人から税金をたくさん取り続けては不満も溜まると思います。どうすればいいのか、詳しく調べて見ました。

すると、世界には税金の無い国があることが分かりました。それは人口約一万人のナウル共和国です。ナウル共和国は、かつて、リン鉱石の輸出によって栄えていて、一九八〇年代には太平洋地域で最も高い生活水準を享受し、公共料金や税金は無料という生活を謳歌していました。私は、「税金が無くてもやっていける国があるんだ」と新たな可能性を知りました。しかし、ナウル共和国はその後のリン鉱石の枯渇によって政府は深刻な財政危機に瀕しました。結局税金がなくてはダメなのではないかと思いました。反対に、日本よりも税金が高くても幸福度が高い国はあります。世界幸福度ランキング一位のフィンランドや二位のデンマークは日本よりも税金が高いにも関わらず、国民の幸福度は高いです。

その理由の一つが税にあると思います。デンマークでは大学までの学費は全部国が負担し、出産・育児休暇は五十六週間給料がきちんと貰えます。とにかく子どもの存在が大事にされているため教育の保障が手厚いです。そのため、子どもを育てることに安心感が生まれ、幸せに暮らせているのではないかと思いました。

これらのことから、私は、日本の税金に対する不満が募っているのは、その使い方が原因なのだと考えました。税金の使われ方がもつと明確であったり、国民に対しての得になることであれば、税金が高くて不満が募ることがないと思います。税金は負のイメージが強いかもしれないけれど、使い方によっては私たちにあって良いものにもなります。私は、見方を変えることが大切だと考えます。